

鬼は外！福は内！ 幼児センターで「豆まきの会」

2月4日、はまなす幼児センターの体育館で「豆まきの会」が行われました。

この豆まきの会は、一年のすこやかな成長と無病息災を願って毎年行われています。

子どもたちは、先生から節分の由来のお話をきいたり、先生方が熱演する「ももたろう」の劇を見た後、豆まきの歌を歌ったりしていると突如鬼が登場。怖がりながらも勇敢に豆を投げつけて、鬼を退治していました。その後教室に戻り、体が丈夫になって今年一年風邪をひきませんようにと願いを込めながら、自分の年齢と同じ数だけ豆を食べていました。



主婦20人が挑戦！ はつらつお料理教室

2月5日、生涯学習センター調理室で共和町ポテト会（共和町食生活改善推進協議会：高嶋眞智子会長）主催による「はつらつお料理教室」が開催されました。

今年は、「働き世代のための生活習慣病予防スキルアップ事業」の一環として、「減塩」と「野菜を350g以上食べる」ことを目標に開催され、6品のメニューに町内の主婦20人が挑戦しました。

参加者からは、「いつも使っている材料の違う調理法が分かり、勉強になった」、「一人暮らしなので、仲間と一緒に料理が出来て楽しかった」などの声も聞かれ、おいしく楽しく生活習慣病予防について再確認していました。



いじめ撲滅に向けて 共高生として最後の授業

2月6日、今年度で閉校となる共和高校の3年生6人が、小高連携事業として東陽小学校3年生18人を対象に最後の授業を行いました。

授業では、「いじめ撲滅」をテーマに、いじめの実例を踏まえた紙芝居を行った後、グループ毎に分かれていじめについて話し合いました。

児童たちは、「なぜいじめが起きてしまうのか?」、「相手を思いやる言葉はどんな言葉か?」などを、先生役の高校生に相談しながら真剣に考えて、最後に自分がこれからどうしたいかを記入したカードを提出し、いじめの無い学校づくりを誓っていました。



新たに交流の場も設置 国富駐在所開所式

岩内警察署国富駐在所の新築工事が終了し、2月8日に開所式が行われました。

国富駐在所は大正10年に「国富巡査駐在所」として創設以来、現在まで地域の安全を守ってきました。

新しい駐在所は木造2階建て、延べ床面積約140平方メートル、1階の事務室は4倍ほどの広さで、新たに地域住民との交流の場とするためのコミュニティスペースが設けられており、町民の方が立ち寄りやすい作りとなっています。

開所式には岡田昭広岩内警察署長や山本町長ら約30人が出席。駐在する小番昌幸巡査部長は「心機一転、安全・安心なまちづくりのために尽力したい。町民の方が気軽に立ち寄って、貴重な意見を聞かせてほしい。」と抱負を述べてくれました。



スキー大会結果

2月11日に町スキー場で行われた第56回町民スキー大会兼第35回連盟杯スキー大会兼第7回かかし杯スキー大会結果をお知らせします。(敬称略・1位のみ掲載)

スポーツ情報

◎町民大会

男子大回転

小学1年 遠山 慶介(北辰小)
小学2年 高須賀 光(北辰小)
小学3年 吉田 治生(北辰小)
小学4年 川田 響(北辰小)
小学5年 田村 隼人(西陵小)
小学6年 小野仁一路(北辰小)
中 学 石井 裕人(共中2年)

一 般 渡邊 幸司

女子大回転

小学1年 小野 双葉(北辰小)
小学2年 木谷 彩乃(東陽小)
小学3年 伊藤日向子(西陵小)
小学4年 塩山由乃佳(東陽小)
小学5年 石田 琴羽(北辰小)
小学6年 木谷 聡美(東陽小)
一 般 下岡 真美

◎連盟杯ラップ賞(小学3年～6年)

男 子 小野仁一路(北辰小)
女 子 石田 琴羽(北辰小)

◎かかし杯

クラスA(小学1年～2年)
谷内 武瑠(北辰小1年)
クラスB(小学3年～一般)
石井 裕人(共中2年)

スキー連盟 バッジテスト合格者

2月16日、17日に行われたスキー連盟バッジテストの合格者をお知らせします。(敬称略・順不同)



<級別テスト>

2級 金安 登生 木谷 聡美
石田 柊太 高須賀 成
金井 寧花 石田 大佑
3級 松田 晴人 川田 響
金井 山和 石田 琴羽
竹内 そら
4級 竹内 きら

<ジュニアテスト>

1級 伊藤日向子 竹内 きら 奈良 海侑 谷川 凜
川田 響 鹿谷 蒼純 菱沼 穂香 伊藤 真拓
2級 小野真莉奈 宮崎 稟彪 4級 佐々木亮介 尾下 桂嗣
石田 若菜 佐藤 暖笑 伊藤 楓真 品田 遥香
若狭 有紗 酒井 一斗 5級 森田 亘 栗野 桔平
木谷 彩乃 高須賀 光 村瀬翔太郎 藤塚 琉彩
3級 谷内 武瑠 遠山 慶介 6級 藤塚 琉月 梶原 康生
舟崎 龍哉 森田 遥稀



東陽小学校

各小学校一日体験入学のようす



北辰小学校



西陵小学校

かかし文芸会

共和短歌会

シベリアの虜囚に堪えし父なれば

心配するなど娘に便り書く

齊藤 宏

外出で歩が遅いと妻の声

常に背にあり雪の道々

平田 東助

幸せの少なき母と吾なれど

くせ髪の頭母娘の証あかし

小林 初枝

一日がすぎたるだけの新年は

昨夜の続きの朝が明けたり

佐藤 和子

共和俳句会

音読もリハビリとして去年今年ことし

雨夜 正義

老いた今心やさしく豆を撒く

青木 昭三

瀬の音をのみ込んでゆく冬の川

小室 羊岳

一湾の部落をつなぐ寒あかり

酒谷 定子

解けそうでとけぬパズルや軒つらら

雨夜 礼子

隣家まで五分の道や深雪晴れ

舟山フミ子